



## みなさん、はじめまして ～理事長就任にあたって～

社会福祉法人アトム共同福祉会理事長 村田 和子

皆さま、はじめまして。新理事長に就任いたしました村田和子です。

市原悟子理事長の退任を受けて、バトンをつぎました。過日キターネホールで開催されました法人設立 20 周年の際の閉会ご挨拶でも申し上げたことですが、改めて皆さまに着任のご挨拶をさせていただきます。

私は、現在 65 歳です。東京で生まれ育ちました。「三丁目の夕日」という映画の世界そのままに、近所にはたくさんの異なる年齢の子どもたちがいて、そして、おせっかいで、世話好きで、おもしろい大人が周りにいた子ども時代でした。気が弱く、泣かされっことでした。子どもの頃から人間相手の仕事につくこと、福祉と教育を繋いで、地域を耕す人になりたい、女性差別のない社会にしたいと貝塚市公民館職員、さらに教育委員会で働き、子育てから老いに至るまで自分らしく生きる社会をめざして、社会と教育を結び人が育ちあう社会教育という仕事に携わってきました。その後、2008 年からは和歌山大学の教育・研究職として働き、多くのご縁と出会い、人と地域に教えられ、この 3 月和歌山大学を定年退職いたしました。

これまで受けたご恩を次の世代に送りたいと願い、一市民としての生涯学習者を生きることが宣言して、一歩踏み出したわが人生で、アトム理事長のお話をいただきました。これまでアトムについては、NHK スペシャルはもちろんのこと、刊行物をはじめ、市原悟子さん、山本健慈先生から長年に渡ってその実践をお聞きしてきました。野中泉園長も旧知の間柄です。みなさん魅力的で、心から尊敬し、信頼している方々です。ですが、保育者としての経験も皆無な私ができることは何も無いかもしれません。ただ、私には、新たな世界を知りたいという好奇心が人一倍あります。アトムが培い、みんなが大切にしてきたことをつかみとって、自身がよき学び手としてお手本にしていただけるよう、自分ができることを探り、社会に発信していきたいと思います。

理事長としてスタートを切る職員会議で私が問のあたりにしたのは、ひとつのことをめぐって、すぐに賛成、反対を選択しない世界を大切にすることです。この日は、よくわからない、悩み中という問いと応えの間にあるものを、個人のもやもやというレベルに押し込めるのではなく、徹底的に話し合っ、理解しあい、共に解いていこうとする職員たちの姿です。これは、これまでのアトムが集団的に育んできた職員文化といってもよいものだと思いますし、「ともに」を表すひとつです。これは、実は、すべての事柄においてスピードや効率性が求められる現代社会にあって、ゆっくりと丁寧に人と向き合うこと、互いを人として受け止めあうこと、これこそアトムの保育実践の基盤をつくりだす営みだと感じました。

保育者・職員と保護者のみなさんが、サービスを提供する人、される人という関係ではなく、子育てを通じてともに育ちあう仲間として、地域社会、行政の皆様ともよき関係をつくりながら、これまでつくりだしてきた大切な宝を共に語り合い、確かめあいつつ、新しいアトムという未来の種を育てていきたいと存じます。

皆さまにも引き続きの支援とご協力、ともに歩んでいただくことをお願いして、理事長就任のご挨拶といたします。



## 今年の夏は熊本から

前川 良太

“子どもの声を尊重してやりたい。自己決定する時間を大事にしたい。”ある家庭と話していた時にうちの家ではこんな風に育てたいと思っていますと教えてくれたことです。そして同時に、つばさの保育はどうですか？と問われた言葉でもありました。もちろん大切にしたいという思いは同じです。だけど時々懇談会でも「子どもの気持ちを尊重するってどういうこと？」という言葉も聞かれます。“叱らない子育て”のような育児書もよく目にするようになりました。子どもの気持ちを尊重するって大切なことはわかるけれど、実際にどうすることなんでしょうか？投げかけてくれたそんな問いを抱えたまま、月末に保育団体合同研究集会（合研）に出席するためにはるばる熊本まで行ってきました。参加したシンポジウムの中で、すこしひも解く糸口が見えたような気がして、少し紹介したいと思います。

シンポジウムの中で「学びの物語」という著者で有名な大宮教授が、ニュージーランドの幼稚園で「あなたの園の方針は何ですか？」と聞いたそうです。すると園長先生は「私たちの保育は参加民主主義の実践だ」と答えたそうです。なるほど子どもを対話する相手として意見を聞くことこそ、子どもの思いを尊重するということで、民主的、つまり一緒に考え合って生活していくことなんだなととても腑に落ちました。だから子どもが言ったことは何でもその通りさせなければならないでもなく、無視して大人の都合だけで決めてもいいわけでもなく、しっかり子ども自身も社会と一緒に参加していく相手ととらえる大人の姿勢が大事なのではないのでしょうか。きっと初めに紹介したお母さんの投げかけは、保育の中で我が子の投げかけはそんな風に受け止められているかということ問いかけていたのだなと思っています。

思い返せば我が家もある意味民主的かもしれません(笑)アトムの懇談会に親として参加した時、「子育てに大事にしていることは？」というテーマで話をしました。こんな仕事をしているけど、別に大事にしていることなんてありません（それでよいのかは置いて）。一つ、あえて答えるとするなら私は我が子たちのことを「共同生活者」として見えています。一緒に生活をしているのだからもちろん意見も言えればいい。けどわきまえてほしいこともあります。いつまでも外で遊びたいと言ったって、その後ご飯の用意をしなければなりません。もちろん意見は言って構わないけれど、そこは折り合いをつけてもらわないと生活は立ち行きません。逆にこちら、年齢以上のことを求めるようなことはないようにわきまえないといけないと思っています。我が子相手だとなかなか感情のコントロールには苦戦しますが。そして時には今日の晩御飯お寿司にする？焼肉にする？なんてことはみんなで話しあったり、「今日はパパ誕生日やから決めていいで」と言ってくれたりします。対話しながら一緒に責任も役割も分け合いながら共同生活をしている我が家です。

保育園も、みんなにとっての大きな家です。共に生活し合って過ごしています。自分の意見も大事にしながら、相手の思いも大事に思えるような子どもたちに育ててほしいと思っています。それが民主的な市民を育てるのではないでしょうが。



毎年全国各地を回って開催されている合研集会は今年で56回大会です。今回は初の熊本開催でした。現地に2000人、オンラインで5000人参加だそうです。保育士、教師、保護者等立場を越えてみんなで子育てや社会、平和について考え合う場です。